

リリースノート: Composer G.0.1 導入編

この文書は、Composerバージョン8.5からのアップグレードユーザーを対象としています。Composerの新規ユーザーまたはそれ以前のバージョンからのアップグレードユーザーは、

以前のバージョンのリリースノートを確認することをお勧めします。[これらはSymetrixのウェブサイトで確認できます。](#)

以前のバージョンからの変更点

G.0 主な新機能と変更点

- Server D100のサポートを追加
- システムマネージャーに新たなオーディオネットワークタブを追加し、Dante機能を追加機能を追加。これには、単一のボタン操作で全てのSymetrix xIOデバイスを更新する機能が含まれます。
- スーパーマトリックスに新機能と改良を追加し、より大きなサイズに対応、ユーザーマトリックスビューの保存と復元機能の向上、グラフィックの改善、ツールチップの追加を実現
- Composerにおける大規模サイトファイルの処理を大幅に改善。スクロール、モジュールの選択と移動、ファイルサイズの削減を実現
- ロケート時にデバイスの既存ネットワーク名を保持する新機能を追加
- 詳細はヘルプファイルを参照

G.0.1 修正と改善

Composer 9.0.1 では以下の問題が修正または改善されました：

- AV Ops Center: 一部のサードパーティ製デバイスとの互換性問題を修正
- AV-Ops Center: デバイスがDNSサーバーの欠落または無効によりAV-Ops Centerに接続できない場合のエラー処理を改善しました。
- Composer: 互換性向上のため、一時フォルダの場所をAppData/Localフォルダに変更しました
- Composer - AV-Ops Center Managerに「全解除」オプションを追加
- Composer - 「xIO Updater/Configurator」によるxIOラックユニットのプログラミング性能と信頼性を向上

- Composer: プロパティからDanteデバイスの位置情報ユニットを変更する機能を追加。多数のDanteデバイスを変更する必要がある場合に特に有用です。このフィールドは、位置情報デバイスを最初に設定するために使用することはできません。
- Composer: デバイスのツールチップにDante IPアドレスを表示するようにしました。
- Composer: DSPの検索時に「ネットワーク名同期」オプションをダイアログに追加しました。
- Composer: AV-Ops Centerの「全サイト取得」および「サイト解除」コマンドにパスワードセキュリティチェックを追加。
- Composer: ファイル名の後にコマンドラインオプション「-Push」を指定してComposerを起動すると、特定のサイトファイルを開いて即座にプッシュできます。自動化に有用です。
- Composer: インテリジェントモジュールが削除または操作できない稀なケースを修正しました。
- Composer: サイトビューで、数字キーを押しながら複数の接続を描画すると、一部のネットワークI/Oポイント間で1:1の接続が描画されない問題を修正。
- Composer: xIOに対して「プッシュされたパラメータ値を復元」サイトオプションが機能しない問題を修正しました。
- コンポーネント: Windows版SymVueへの32バンドEQグラフのエクスポートが正常に行われない問題を修正
- Composer: 指定されていない画像ファイルの場所がSymVueエクスポートを失敗させる問題を修正しました。
- Composer: コントロール画面上のテキストボックスがデフォルトの色に戻ってしまう問題を修正
- Composer: 一部のUnicode文字を使用した記録および再生パスに関する問題を修正
- Composer: 非常に大きなレポートのパフォーマンス問題を修正
- Composer: メニュー「モジュール設定をプリセット x に保存」を選択する際に Control キーを押したままにすると、操作後にプリセット番号が繰り上がります。1000に達すると、1に戻ります。これは、モジュールビュー、コントロール画面ビュー、デザインビューのいずれでも動作します。
- Composer: 大型LEDのグラフィックを改善しました。

- コンポーザー: 状況によっては、コンポーザーがインテリジェントモジュールのスクリプト位置変更を許可しない場合があります
- Composer: サイトツールキット内のDSP順序を再編成しました
- Composer: スーパーモジュールが最大512x512の入出力をサポートするようになりました
- Composer: ライブラリに3つの新しいスーパー モジュールを追加: マルチバンドコンプレッサー7、シングルサンプルグリッチ検出器、USB再起動トリガー
- Composer: 「パスワードを忘れた場合」ダイアログを更新
- DSPファームウェア: プリセットの読み込みが遅くなる問題を修正
- DSPファームウェア: ごくまれに、AV-Ops Centerへのデバイス報告が停止する問題を修正
- DSPファームウェア: スペースを含むパスワードを適切に処理するようメールモジュールを改善
- DSPファームウェア: GEQモジュールのノイズフロアを改善。
- DSPファームウェア: パンナーモジュールのDSP一貫性を左右両端で改善。
- DSP Web Media Manager - 特定のフォルダやファイルを削除または移動しようとした際のファイル処理と保護を改善
- フームウェア: AV-Ops Centerにアップロードされたログが切り詰められる問題を修正
- インテリジェントモジュール: ラジオボタンの最大サイズを64に拡大。
- Lua API: API に「Device.LocalUnit.TimerResolution」、「Device.LocalUnit.InterfaceVersion」、および「Device.LocalUnit.FirmwareVersion」を追加。使用方法についてはヘルプファイルを参照してください。
- MediaManager - 特殊文字を含むファイル名の再生問題を修正
- MediaManager - 複数ファイルの同時削除に対応しました
- 公開リリースノート向けではありません。
- Radius NX: フィードバックを利用した大規模なスーパー マトリックスを持つデザインでは、「UnMute All」の実行に予想以上の時間がかかる場合があります。
- SymVue - 記録/再生モジュールのメディアマネージャーがSymVueから起動するようになりました
- SymVue および Composer : ノブコントロールのスケールカラーおよびスケールドットが、Composer で選択したカラーに正しく追従していました。

- Tシリーズ：接続された DSP に無効な時間が設定されている場合、Tシリーズの接続が失われることがあるというまれな問題を修正
- USB ドライバー：互換性の向上とバグ修正により更新されました。Composerのインストール先にある Drivers フォルダからインストールしてください。
- Wシリーズ：壁面リモコンとComposerの両方で、特定のWシリーズボタンメニューに表示されるオン/オフのテキストまたは記号の値が反転していました。これは修正されました。この修正は、入力選択ボタンなど、単一のボタンでありながらラジオボタン制御のように動作する特定のボタン割り当てにのみ適用されます。これらのボタンは押すことはできても、押した状態を解除することはできません。 サイトファイルで値を反転させて正しく表示させていた場合、アップグレードにより元に戻され、誤った表示となるため修正が必要です。壁面ユニットではこれらのボタンのLEDオン/オフ状態も反転していましたが、Composerシミュレーションでは正しく表示されていました。この問題も修正済みです。
- W1: プロパティで「アイドル時に日付/時刻を表示」がFalseに設定されている場合、画面に他の設定済みアイドルUIが表示されない問題を修正
- xIO Bluetooth - DSPなしでComposerでプログラムした場合、xIO BTは電源再投入後にPINをリセットする可能性がある
- xIO Bluetooth: xIO Bluetoothインテリジェントモジュールに新しいBluetoothデバイス「接続済み」LEDを追加。これにより、接続発生時に開始または停止するアクション（例：ピン変更）を作成可能。既存設計のIMをツールキットの新しいモジュールと交換する必要あり
- その他の軽微な修正と改善
- ヘルプファイルへの追加と改善

既知の問題

新しい G.0 既知の問題

1. ユーザコレクションからサーバーD100にインテリジェントモジュールを追加すると、モジュールが動作しなくなります。コンピュータのファイルからモジュールを手動で追加してください。システムは引き続き動作します。
2. コンポーネント - AV運用センターがデバイス交換を正しく実行しません。古いデバイスを削除し、新しいデバイスを追加することで回避してください。
3. Composer - 一部の統計情報でモジュール下部のテキストが切り詰められる
4. Composer - サードパーティ製デバイスを使用している一部のサイトでは、メモリを消去するまで0x8エラーコードでプッシュに失敗する場合があります。

5. Composer - 非常に古いバージョンのComposerのマトリックスミキサーはD100と互換性がありません。ツールキットの新しいマトリックスミキサーに置き換えることで回避してください。
6. メディアマネージャー - ファイルは通常のフォルダからプレイリストフォルダへ移動でき、移動後はウェブ上で表示されなくなります
7. サーバー D100 - IM は依然として 32 個の「長文テキスト」コントロールに制限されています
8. サーバー D100 - アクティベート対象がないにもかかわらず Dante Activator に表示される
9. T-Series - 透明度をtrueに設定しても、T-Seriesのラジオボタンは透明になりません
10. T-Series - ビデオストリームコンポーネントがURLからの画像更新を正しく行わない
11. xIO XLR - IMが実行されてリセットされない場合、PushのLEDが最終的なカラー状態を表示し続けることがあります

VoIP関連の問題

1. スピードダイヤル番号が転送先として選択された場合、転送はブラインド転送として即座に完了します。
2. Composer サイトファイルをデバイスにプッシュすると、たとえ実際は米国以外であっても、ロケーションが米国であるという VoIP カードログメッセージが生成されます。このログメッセージは無害です。
3. 回線上のローカル会議がアクティブで、ローカルでDTMF数字が押された場合、DTMF信号は会議に最も最近参加したコールアピアランスにのみ送信されます。2つのコールアピアランスを使用して会議を確立する場合、いずれかのコールアピアランス（例：会議ブリッジ）がDTMF数字を受信することが重要な場合は、そのコールアピアランスを最後に加えるようにしてください。
4. VoIPカードのTelnetセッションには、ERR（エラー）として分類されるログメッセージが存在する場合がありますが、これらは実際のエラーを示すものではありません。
5. ローカル会議で回線2の2つの通話表示を使用している場合、最初の通話表示の通話終了ボタンを押すと、最初の通話表示の通話が終了します。この場合、2番目の通話表示の通話は保留状態になります。この通話レグを再開するには、表示2の通話終了ボタンまたは保留ボタンを押してください。
6. DTMFリレータイプがSIP INFOに変更された場合（デフォルト値は「帯域外」）、SIP INFOメッセージは、通話のSIPダイアログセッションに使用されるトランスポートタイプとは異なる場合、その回線に設定されたトランスポートタイプを使用して送信されます。

7. デフォルトのDTMF中継タイプ「帯域外」を使用し、DTMFオンタイム設定をデフォルト値150msより長くした場合、高速な数字入力により送信ストリームで数字が欠落する可能性があります。
8. 国パラメータがオーストラリアに設定されている場合、ローカルルームで再生される「着信音」および「通話中」の通話進行音は、その国で想定される音とは異なります。国パラメータがドイツに設定されている場合、ローカルルームで再生される「着信音」および「再ダイヤル」の通話進行音は、想定される音とは異なります。
トーンと異なります。国パラメータが英国に設定されている場合、「再ダイヤルトーン」の通話進行状況トーンが期待されるトーンと異なります。これは通話信号には影響せず、ローカルルームに再生されるローカル生成の音響効果のみに影響します。
9. Web管理ページで自動応答機能が有効化されている場合、ある通話表示でアクティブな通話がある状態で、別の通話表示に2番目の着信があり自動応答された場合、この着信は保留状態になりません。最初の通話は双方向音声でアクティブなまま維持され、2番目の通話には音声が流れません。会議室用途では、Symetrixは自動応答機能を無効にしたままにすることを推奨します。
10. Web管理ページで自動応答機能が有効化されている場合、自動応答時間枠内（つまり自動応答が行われる前）に手動で応答され保留状態に置かれた通話がある場合、この保留中の通話は自動的に再開されます。
11. Web管理パスワードをデフォルト値にリセットする「Web管理パスワードのリセット」ボタンを押した場合、設定は即時保存されません。システムを再起動すると、古いパスワードで起動します。この問題を回避するには、Web管理画面の設定を変更し、パスワードリセット後にファイルをフラッシュメモリに強制保存するように設定してください。
パスワードをリセットした後、ファイルをフラッシュメモリに強制的に保存するようにWeb管理画面の設定を変更します。
12. VoIPカードの回線1から同じVoIPカードの回線2へ発信した遠隔側が実行する相談転送では、通話が転送されず、最初の通話は切断されます。
13. VoIPカードは、ライン1またはライン2の「サーバーアドレス」フィールドが入力される前に、登録が成功したことを示す場合があります。ただし、このフィールドは発信および着信を行うために必須です。
14. 着信音や転送先の応答を待たずにユーザーが転送を完了するブラインド転送機能は、実際には半自動転送と同様に処理されます。転送先が応答しない場合、転送先は保留状態のままとなります。

15. ダイレクトURIダイヤル文字列では非標準ポート番号を指定できません。例：1001@10.4.0.156:8325 をダイヤルした場合、宛先ポート8325ではなく5060が使用されます。
 16. まれに、Web管理画面で使用されるHTMLファイルが読み込まれない場合があります。この場合は、ブラウザを更新してWeb管理画面を表示してください。
 17. DTMFリレータイプを「インバンド」（デフォルト値は「アウトオブバンド」）に変更した場合、G.722コードックを使用した通話において、送信されるDTMFトーンの持続時間がWeb管理画面で設定された「DTMFオントライム」パラメータと一致しません。実際の持続時間が短いため、特定の遠端端末との通信には設定時間を延長する必要がある場合があります。
 18. フームウェアのアップグレード後にVoIPカードを追加または交換した場合、VoIPカードに正しいweb管理ファイルが含まれていない可能性があります。VoIPカード追加/交換後は、該当ユニットに対して手動でフームウェアのアップグレードを実行してください。
- #### その他の問題
1. T-5およびT-5 Glassは、8.5-8.2から8.1または8.0へのダウングレードはできません。ダウングレードを試みると、T-5の画面にSymetrixロゴのみが表示される状態になる可能性があります。デバイスの完全な動作を回復するには、8.2へのアップグレードを行ってください。T-5を8.5-8.2からダウングレードする必要がある場合は、特別な手順についてテクニカルサポートにお問い合わせください。
 2. スイッチング時または冗長モード変更時に、Danteオーディオの通過に失敗する可能性があります。変更方法については[以下の手順](#)を参照してください。
 3. Composerがデバイスを検出できない場合があります。場合によっては、以下の手順が必要となることがあります。Windows ファイアウォールの設定変更。**Windows ファイアウォールを開き、[詳細設定] > [受信のルール] > [新しいルール]**を選択。Composer81.exe のパスを指定し、ルールを保存。送信ルールの設定も同様に行う。PC を再起動。
 4. Radius NXで外部USBドライブにアクセスする複数の機能を同時に使用すると、パフォーマンスが低下する可能性があります。例としては、録音、再生、FTPやメディアマネージャー経由でのファイルアクセスなどです。理想的には、これらの機能の使用を一度に1種類、多くても2種類までに制限してください。
 5. Radius NX USB録画は1ファイルあたり4GBに制限されます。それ以上の連続録画は分割されます。
 6. Radius NXの録音または再生に低品質の外部USBドライブを使用すると、パフォーマンスの低下、音飛び、さらにはデバイスのリセットが発生する可能性があります。高品質のドライブのみを使用してください。

7. メディアマネージャーでは、非米国文字を含むプレイリストを編集できません。回避策として、FTPを使用して手動で編集してください。同様に、非米国文字を含むオーディオファイルはメディアマネージャーでレビューできません。
8. プリセットで全デバイスをミュートする場合、Attero Tech製およびその他サードパーティ製デバイスはミュートされない可能性があります。Danteトランスミッターはミュートされるため、Symetrixユニットからの音声受信がない状態では、実質的にミュートされた状態となります。
9. xIn、xOut、xIO、またはサードパーティ製Danteユニットをネットワークに初めて接続した場合、Composerが検出するまでに最大2分かかることがあります。接続を解除した後も、最大1分間Composer上に表示されたままになる場合があります。
10. Composerの一部のコントロールはSymVueパネルに追加できません。完全なリストについては、ヘルプファイルのSymVueトピックを参照してください。
11. SymVueパネル内の大規模なボタンマトリックスは、パフォーマンスに悪影響を及ぼす可能性があります。
12. 100を超えるプリセットに大規模なマトリックスモジュールの設定を保存すると、パフォーマンスに悪影響を及ぼす可能性があります。
13. Shureマイク診断機能を含むSymVueパネルを複数インスタンスで起動すると、パフォーマンスに悪影響を及ぼす可能性があります。SymVueで開くShure診断コントロールの総数を最小限に抑えることをお勧めします。
14. SymVueパネルと対応するコントロール画面間で表示される周波数にわずかな差異が生じる場合があります。
例：英国式EQの周波数設定において
表示上、制御画面が200.000 Hzを示している場合、パネルには200.002 Hzと表示されます。EQ周波数に示される非常に高い精度のため、こうした丸め誤差が目視可能となります。
周波数表示の高精度さゆえに目立つものの、通常0.002%未満であるため無視できる範囲です。
15. オクターブとQ値を切り替え可能なEQモジュールの場合、ラベルに「オクターブ：」と表示されていても、SymVueパネルには常にQ値が表示されます。ラベルはエクスポート時に生成され、モード変更時には更新されません。SymVueへのエクスポートが必要なフィルターは、Qモードのままにしておくことを推奨します。
16. 背景画像のあるコントロール画面では、ワイヤーフレーム選択が困難です
ワイヤーフレーム選択時に画像が選択・移動される可能性があるため、画像上にコントロールを配置しないでください。回避策として、まず右クリックメニューで画像をロックしてください。その後、ワイヤーフレームでコントロールを選択する際はAltキーを押したまま操作してください。
17. DTMFデコーダモジュールでは、DTMFシーケンスを
プリセットに保存できません。ただし、設定ファイルには保存可能であり、モジュール間で移動できます。

- 18.** 数値ボックスを対応するフェーダーなしでコントロール画面に配置した場合、正しく更新されない可能性があります。回避策として、フェーダーも一緒に含めるようにしてください。
- 19.** Audinate社のDante ControllerソフトウェアでDanteルーティングや設定を変更すると、機能不全が生じる可能性があります。Dante Controllerでの変更はComposer経由での変更と競合する恐れがあります。最適な結果を得るには、Danteハードウェアの再起動やDante Controllerを使用した設定変更は行わないでください。本ソフトウェアは監視およびトラブルシューティングツールとしてのみご利用ください。
- 20.** ARC-WEBダイアラーにおいて、多数のスピードダイヤルに極端に長い文字列（合計数千文字）が登録されている場合、ダイアラーが機能しない可能性があります。通常の使用環境ではこの問題は発生しにくくと考えられます。
- 21.** xI04デバイスのDanteカーネルファームウェアをアップグレードする際、Danteネットワーク上に多数のユニットが存在すると、アップグレードが失敗したと報告される場合があります。ただし、新しいバージョン番号が表示されることで確認できるように、実際にはアップグレードは成功しています。
誤ったメッセージを回避するには、Danteネットワーク上で対象のxI04ユニットと位置特定用DSPユニットのみを接続した状態でアップグレードしてください。
- 22.** 特定の広告ブロッカーブラウザ拡張機能がインストールされている場合、Webモニタリングが正常に動作しない可能性があります。ユニットのWeb GUIにアクセスできない場合は、すべての広告ブロッカーを無効にしてください。
ブロッカーを設定するか、またはユニットのIPアドレスをホワイトリストに追加してください。
- 23.** SymVue制御画面に複数のUSB再生モジュールを追加する場合、制御画面をエクスポートする前にコンパイルまたはプッシュを実行する必要があります。そうしないと、ファイル/プレイリスト選択コントロールがモジュールごとに独立して動作しません。
- 24.** 一部のxI0 Bluetoothユニットで工場出荷時リセットを実行すると、ファームウェアは出荷時のバージョンに戻りますが、デバイス名などの一部設定はリセットされない場合があります。名前やその他の設定がリセットされない場合、ユニット動作中にハードウェアリセットボタンを10秒間長押しすることで追加の設定リセットが可能です。ファームウェアバージョン2.17以下にリセットされたユニットでは、長押しボタンによるリセットは利用できません。そのため、工場出荷時ファームウェアリセット後は、すべての設定を手動で再構成する必要があります。いずれの場合も、名前やその他の設定データをリセットする必要がない場合は、この手順を省略してもユニットは正常に動作します。

インストールに関する注意事項

既存のインストール環境をアップグレードする場合で、起動時に設定が自動的に読み込まれる場合は、以下の手順を推奨します：

1. 元のサイトファイル (.symxファイル) のコピーがあることを確認してください。ローカルドライブに存在する場合、手順#2に進みます。そうでない場合は、以前インストールしたバージョンの Composerを選択し、**ハードウェア > システムマネージャー**を選択します。アーカイブされたサイトファイルを含むハードウェアを選択し、「オンライン接続（ユニットから取得）」を押します。プロンプトに従ってアーカイブファイルをローカルドライブに保存し、その場所をメモします。
2. 「ファームウェアのアップグレード」に移動し、「メモリの消去」をクリックし、「保存済みサイトファイル」のみを選択して「消去」を押して、自動設定ロードを無効にします。接続されているすべてのユニットでこれを繰り返します。
3. 以下の手順に従いファームウェアをアップグレードしてください。
4. サイトファイル全体をハードウェアに再プッシュしてください。Composer 9.0.1でサイトファイルを開き、[ハードウェア] > [オンラインにする] (デザインをハードウェアにプッシュ) (またはF4キーを押す) を選択します。

上記の再ダウンロード手順に従うことで、ハードウェア上で動作するDSPコードが新しいファームウェアおよびComposerアプリケーションコードと連携可能な正しいバージョンであることを保証します。

アプリケーションコードと連携する正しいバージョンであることを保証します。

バージョン9.0.1は、ハードドライブ上の以前のバージョンとは別の場所にインストールされます。バージョン9.0.1はPC上の以前のバージョンのComposerと共に存可能であり、それらの設定に影響を与えません。ただし、ハードウェアのファームウェアは、通信するComposerのバージョンと一致している必要がある点に注意が必要です。バージョン9.0.1は、バージョン9.0.1と共にリリースされたファームウェアを実行しているハードウェアとのみ通信します。9.0.1でリリースされたファームウェアを実行しているハードウェアとのみ通信します。同じハードウェアを使用しながら Composer のバージョンを切り替える場合は、その都度ファームウェアを変更する必要があることに留意してください。Composer はダウンロード時にこれを確認し、不一致が検出された場合は警告を表示します。

G.0.1用ファームウェアのアップグレード

重要: Composerバージョン9.0.1を実行するには、ハードウェアのファームウェアがデバイスは最新バージョンにアップグレードする必要があります。工場出荷時の新規デバイスで本ソフトウェアをご利用の場合、ファームウェアバージョンは既に正しい状態です。ただし、既存デバイスで使用する場合は、ファームウェアのアップグレードが必要となります。（最新リリースバージョンの情報は、Symetrixウェブサイトで常時確認可能です。）設計をハードウェアにプッシュしようとすると、ファームウェアバージョンが自動的にチェックされ、アップグレードが必要な場合は通知されます。最新ファームウェアは常にSymetrixウェブサイトで提供されています。

最新リリースバージョンに関する情報は、常に[Symetrixウェブサイト](#)で確認できます。）設計をハードウェアにプッシュしようとすると、ファームウェアバージョンが自動的にチェックされ、アップグレードが必要かどうかが通知されます。最新のファームウェアは常に

Composerインストーラーに常に含まれています。

自動アップグレードによるファームウェアのアップグレード

1. 上記の「インストールに関する注意事項」に記載の手順に従ってください。

2. 付属のセットアップユーティリティを使用してComposer 9.0.1をインストールします。これにより必要なファームウェアファイルがハードドライブにコピーされます。
3. インストールしたばかりのComposerバージョンを起動してください。
4. 通常時と同様にハードウェアデバイスを接続してください。アップグレード中は、デバイスに接続されているサードパーティ製オーディオ機器（特にパワーアンプやスピーカー）をすべて切断または電源を切ってください。
5. アップグレード対象の全ユニットを含むサイトファイルが既に作成されている場合は、それを開いて手順7に進みます。そうでない場合は、アップグレード対象の全ユニットを含む新しいサイトを作成します。
6. 各ユニットについて、[ハードウェア]>[ハードウェアの検索]を使用してネットワーク上で位置を特定してください。
7. ハードウェア>ファームウェアのアップグレードを選択します。自動アップグレードボタンを押します。これにより、サイト内のすべてのユニットがアップグレードされます。

この手順で問題が発生した場合、またはアップグレードプロセスをより細かく制御したい場合は、以下の手動操作手順を試してください。

ファームウェアのアップグレード – 手動操作

1. 付属のセットアップユーティリティを使用してComposer 9.0.1をインストールします。これにより必要なファームウェアファイルがハードドライブにコピーされます。
2. インストールしたばかりのComposerバージョンを起動します。
3. 通常時と同様にハードウェアデバイスを接続します。アップグレード中は、デバイスに接続されているすべてのサードパーティ製オーディオデバイス（特にパワーアンプやスピーカー）を接続解除するか電源を切ってください。
4. ハードウェア>システムマネージャーを選択します。ハードウェアタブを選択します。必要に応じて、ネットワーク検索パラメータを変更してユニットを検出します。
5. アップグレードするユニットをクリックし、「ファームウェアのアップグレード」ボタンを押します。
6. 「Composer Firmware File」の下にある「アップグレード」ボタンをクリックします。ファイル選択ダイアログが表示され、ファームウェアファイルを参照できます。デフォルトではC:\Program Files (x86)\Symetrix\Composer 9.0.1\Upgrade フォルダが開きます。適切なファイルを選択し、「アップグレード」をクリックします。ダイアログボックスを閉じます。
7. 複数のデバイスがある場合は、手順5~6を繰り返します。

xIn 12、xOut 12、xIn 4、xOut 4、またはxIO 4x4 デバイスのファームウェアアップグレード

設計をハードウェアにプッシュしようとすると、ファームウェアのバージョンが自動的にチェックされ、アップグレードが必要かどうかが通知されます。xIn/xOut/xIOデバイスのファームウェアをアップグレードするには、以下の手順に従ってください。

1. 付属のセットアップユーティリティを使用してComposer 9.0.1をインストールします。これにより必要なファームウェアファイルがハードドライブにコピーされます。
2. インストールしたばかりのComposerバージョンを起動します。
3. 通常動作時と同様にxIn/xOut/xIOデバイスを接続します。各デバイスは、少なくとも1台のEdge、Radius、またはPrismユニットを含むDanteネットワークに接続されている必要があります。このユニットが、アップグレード対象デバイスの位置特定ユニットとして機能します。
4. 位置決めユニットとxIn/xOutユニットを含むサイトファイルがある場合は、それを開いて7に進んでください。
5. 新しいサイトファイルを作成し、位置決め用DSPユニットとアップグレード対象の全ユニットを追加してください。
6. アップグレード対象の各デバイスについて、ユニットを右クリックし、[Locate ハードウェア]を選択します。テーブル内でデバイスを見つけ、クリックし、「ハードウェアユニットを選択」を押してから「閉じる」を押します。
7. xIn/xOut/xIO ユニットを右クリックし、「ユニットのプロパティ」を選択します。
8. 「ファームウェアのアップグレード...」ボタンを押します。Composerは、ユーザーファームウェアまたはカーネルファームウェアのアップグレードが必要かどうかを自動的に判断し、そのバージョンのComposerに適したバージョンを選択します。カスタムバージョンを選択するには、「バージョン変更」ボタンをクリックし、アップグレードに使用するカーネルファイルまたはユーザーファイルを選択します。これはテクニカルサポートの監督下でのみ行ってください。アップグレードファイルのファイル名にはバージョンが表示されます。「ファームウェアのアップグレード」ボタンを押します。
9. アップグレード対象の各デバイスについて、手順7~8を繰り返します。

RS-485デバイスのファームウェアアップグレード

新しいリリースには、モジュラーARCファミリーやARC-IIeなどのSymetrix RS-485デバイス向けの新ファームウェアバージョンが含まれる場合があります。RS-485デバイスファームウェアをアップグレードするには、以下の手順に従ってください。

方法1 – サイトファイルを使用する

1. 付属のセットアップユーティリティを使用してComposer 9.0.1をインストールします。これにより必要なファームウェアファイルがハードドライブにコピーされます。
2. インストールしたばかりのComposerのバージョンを起動してください。

3. RS-485 デバイスを通常動作時と同様に接続してください。RS-485 デバイスはデバイスには固有のアドレスが必要です（ユニットのロータリースイッチまたはDIPスイッチで設定します。詳細は該当するハードウェアクイックスタートガイドを参照してください）。
4. RS-485デバイスが接続された全ユニットを含むサイトファイルが既に作成されている場合は接続されているすべてのユニットを含むサイトファイルを作成済みの場合は、それを開いて手順6に進みます。そうでない場合は、アップグレード対象のRS-485デバイスを搭載したすべてのユニットを含む新しいサイトを作成します。
5. ハードウェア ハードウェア > ファームウェアのアップグレード を選択します。
6. RS-485デバイスが接続されているユニットを選択し、「アップグレードARC」を選択します。
7. RS-485 デバイスを選択し、「ファームウェアのアップグレード」ボタンを押します。
8. 適切なファームウェアファイルを選択し、「開く」を押します。
9. そのユニットに接続されている各RS-485デバイスについて、手順7と8を繰り返します。他のユニットに接続されているRS-485デバイスがある場合は、手順6~9を繰り返します。

方法2 – システムマネージャーの使用

1. 付属のセットアップユーティリティを使用してComposer 9.0.1をインストールします。これにより必要なファームウェアファイルがハードドライブにコピーされます。
2. インストールしたばかりのComposerバージョンを起動します。
3. RS-485デバイスを通常動作時と同様に接続してください。RS-485デバイスはデバイスには固有のアドレスが必要です（ユニットのロータリースイッチまたはDIPスイッチで設定します。詳細は該当するハードウェアクイックスタートガイドを参照）。
4. ハードウェア ハードウェア > システムマネージャー を選択します。ハードウェアタブを選択します。必要に応じて、ネットワーク検索パラメータを変更してユニットを検出します。
5. RS-485 デバイスが接続されているユニットをクリックし、[プロパティ]を選択します。
6. [RS-485 リモートコントロール] タブを選択します。RS-485 デバイスを選択し、[ファームウェアのアップグレード] ボタンを押します。
7. 適切なファームウェアファイルを選択し、「開く」を押します。
8. そのユニットに接続されている各RS-485デバイスについて、手順6と7を繰り返します。他のユニットに接続されているRS-485デバイスがある場合は、手順5~7を繰り返します。

旧バージョンのComposerサイトファイルに関する問題

バージョン9.0.1では、サイトファイル (.symxファイル) の形式が以前のバージョンから変更されました。バージョン

9.0.1以降では、すべての旧バージョンのサイトファイルを開くことができます。ただし、バージョンG.0.1で保存されたファイルは、以前のバージョンでは読み取れない場合があり、また一部の機能が正常に動作しない可能性があります。

バージョンG.0.1で保存されたファイルは、以前のバージョンでは読み込めない場合や、一部の機能が正常に動作しない場合があります。

コンピュータ上でバージョン9.0.1と以前のバージョンを両方維持する場合、ファイル形式の問題を最小限に抑えるため、以下のガイドラインを推奨します：

以前のバージョンのデザインファイルをすべてバックアップしてください。

バージョン8.0以前のデザインファイルは、バージョン9.0.1の使用またはインストール前に安全な場所にバックアップすることを推奨します。

バージョン9.0.1の使用またはインストール前に、安全な場所にバックアップすることを推奨します。万が一すべてが完全に失敗した場合でも、これらのファイルがあれば、古い設定を再構築する方法があります。Composer 9.0.1でファイルを保存し、以前のバージョンのファイルを上書きすると、以前のバージョンのComposerでは読み取れなくなる可能性があることに注意してください。

バージョン G.0.1 のデザインファイルには、同じファイル名を使用しないでください。

PC上でソフトウェアの両バージョンを維持する場合は、

以前のバージョンのファイルを保存する際には、ファイル名にバージョンを示す何かを含めることを強く推奨します。これにより、ファイルが混在した場合でも区別できるようになります。

両方のバージョンを維持する予定がなくても、少なくともすべての設計ファイルが変換され、バージョン9.0.1を完全に採用するまでは、この方法を使用することをお勧めします。

ソフトウェアをインストールする際はデフォルトの場所を選択してください。

Composerソフトウェアのどのバージョンをインストールする場合でも、インストール先をデフォルトのフォルダに設定してください。これにより、複数のバージョンが互いに干渉することがなくなります。

バージョン G.0.1 のソフトウェアを以前のバージョンのファームウェアと併用しないでください。また、以前のバージョンのソフトウェアをバージョン G.0.1 のファームウェアと併用しないでください。

ソフトウェアとファームウェアのバージョンは一致している必要があります！ソフトウェアとファームウェアが一致しない状態でハードウェアにアクセスする唯一の操作は、正しいファームウェアへのアップグレードです。ファームウェアの不一致に関わらず、アップグレードは通常可能です。これが適用されない場合、リリースノートで特に言及されます。

Danteのスイッチドモードと冗長モード間の切り替え

Danteユニットがスイッチドモード設定のまま冗長モード用に配線された場合、モード変更失敗や音声消失などの問題が発生する可能性があります。デバイスを冗長モードからスイッチドモードへ、またはその逆へ切り替える際は、必ず以下の手順に従ってください。

スイッチドDanteネットワークとデイジーチェーンDanteネットワークのいずれを使用するかによって、異なる手順が必要です。

手順1 – スイッチドネットワークまたは2台のみの直接接続

1. Danteネットワークは冗長モードではなくスイッチモードとして配線してください。つまり、プライマリジャックのみに接続します。あるいは、DSP経由で配置する必要がある冗長対応ユニットがない場合は、Danteネットワークを完全に切断しても構いません。外部スイッチなしで3台以上のデバイスを使用する場合は、以下の手順2を使用する必要があります。
2. Composerで、[ツール] > [Dante Flow Manager] > [Danteの設定] に移動します。状況に応じて「冗長ネットワーク」または「スイッチドポート」を選択します。
3. ユニットをオンライン状態に切り替えます。Danteユニットがモードを変更するため、通常より若干時間がかかります。
4. ユニットの電源を切ります。
5. 新しいモードに合わせてDanteネットワークを適切に配線してください。冗長モードに切り替える場合は、プライマリとセカンダリを2台のユニット間で接続するか、別々のスイッチに接続できます。
6. ユニットの電源を入れます。
7. 再度オンラインを押します。

手順2 – デイジーチェーン接続

1. 最初の2台のプライマリジャックのみを接続します（プライマリからプライマリへ）。
2. Composerで、[ツール] > [Dante Flow Manager] > [Danteの設定] に移動します。デイジーチェーン接続では、スイッチドモードのみがサポートされていることに注意してください。「スイッチドポート」を選択します。
3. サイトファイルで、最初の2台以外のユニットをすべて無効にします。
4. ユニットをオンラインにします。Danteユニットがモードを変更するため、通常より若干時間がかかります。
5. 2番目のユニットを切断し、3番目のユニットの一次側を1番目のユニットの一次側に接続してください。
◦
6. サイトファイルでは、接続された2ユニットのみを有効化してください。
7. オンラインを押します。すべてのユニットに対して手順5～7を繰り返します。

8. ユニットの電源を切ります。
9. すべてのユニットを接続します。
10. ユニットの電源を入れます。
11. サイトファイルで全てのユニットを有効化してください。再度オンラインにプッシュしてください。